

グループ紹介

おじさん放談サロン ロマンの会



平成13年(2001年)に、ローズWAM主催の「男の生き方」講座に参加した者たちが、せっかくの機会を生かそうと、講座修了の翌日にこの会を発足させました。会の名前はローズWAMのメンズクラブ、略して「ロマンの会」。スタート時は約20人でしたが、その後多少の出入りがあり、現在12人に定着しました。

男ばかりで話を進めると、自分たちの理論が正しい、相手の理屈はおかしいと、徹底的に言い負かしてしまうことが多いものですが、私たちの会では相手の意見を十分に聞き、決して否定する意見は言わないで、建設的で有意義な意見交換の場所になっています。

「地域への参加」「親の介護」「女性専用車の是非」「病院の問題点」「人生の店じまいは自分流(生前葬など)」「茶道の心」「建築の常識・非常識」「イラク戦争を考える」「ホテルの話」「父親の存在」「安土桃山時代の男女関係」「自殺者が多い」「五重塔は地震に強い」など、その時の会員の印象深い話題を中心に楽しく、勝手気ままに話し合っています。

昨年秋、茨木市発行の冊子『ここを開くサイン』にこの会のことが掲載されました。また、昨年2月の「WAMまつり」では、茨木市の男女共同参画課長や大阪市のメンズセンター、高槻のグループ「槻の環」の方たちとシンポジウム「男たちの私さがし」にも参加しました。

現役、リタイアを問わず男性の皆さん、気楽に参加してみませんか。

例会開催日 毎月第4金曜日
19:00~21:00
場所 ローズWAM 405号室
連絡先 藤原 公夫 635-3502

おもちゃづくり 茨木伝承玩具研究会



玩具文化の伝承、地域における世代間交流の支援、会員相互の親睦を目的に、平成12年(2000年)4月に発足したシニアグループです。現在20人の会員が茨木市立生涯学習センター きらめきを拠点に活動しています。

最初は、昔遊んだ懐かしいおもちゃを素直に作ることから始めましたが、作っている過程でいろいろなアイデアが生まれ、現在は、和気あいあいと楽しい雰囲気の中、工夫を加えたおもちゃづくりに挑んでいます。

その「学習」ならぬ「楽習」成果は、毎年4月29日に、茨木市中央公園北グラウンドで開催される「みんな集まれボランティア！」で市民の皆さんにご披露しています。また地域では、毎年夏休み中の3~6日間、太田地区公民館で、最近では大池小学校の「大池っ子ひろば」でも、子どもたちといっしょにおもちゃづくりを楽しんでいます。

子どもたちは、大人が思う以上に想像力が豊かで教えられることが多々あります。これが私たちのエネルギーとなり、まさに「教えることは教わること」を実感しています。

世代間交流を通してのおもちゃづくりが、子どもたちの想像力の刺激に役立ち、新しいものづくりにつながればと思っています。

例会は、毎月第2、第4金曜日の午後、生涯学習センター3階で開催していますので、見学方々ひやかに来てください。

連絡先 今若 俊剛 627-7299

市民インタビュー



第26回

茨木市民の中からいきいき生活の達人を探し出し、紹介するコーナーです。話から見えてくるその豊かな人生に、あなたもきっと勇気づけられることでしょう。



「イバラード」の世界を描く画家

井上 直久さん

幼少の頃から音楽と絵と科学が大好きだった井上さん。春日丘高校美術教諭時代から描く「イバラード」は、画家として独立し、大学教授として指導にあたる現在も、その独自の世界を広げて続けています。

井上さんが描く「イバラード」の世界とは、「自分」が存在する意味とは……。

井上さんが影響を受けたものは何でしょうか。

私は絵だけでなく、音楽や物語も大好きでした。音楽は、父がレコードで「ウィリアム・テル序曲」「ラ・クンパルシータ」などを聴かせてくれました。物語は「少年ケニヤ」「少年西遊記」などを、長じてからは、宮沢賢治やカフカなどを好んで読みました。絵は、雪舟や東山魁夷、ゴッゲン、セザンヌ、ダリなどが好きでしたね。色彩ではモネ、写実では現代アメリカリアリズム絵画のアンドリュー・ワイエス、また、世紀末のパリを撮った写真家ウジェーヌ・アッジェが好きで、このあたりの影響も受けていると思います。

高校時代に聴いたビートルズの影響は大きいですね。歌詞や曲、音響効果、アルバムのコンセプトなどすべて自分たちで作るという姿勢は、音楽だけでなく創作活動全般や生き方にも通じます。

「イバラード」とは何でしょう。

私が描いている絵の世界の地名で、宮沢賢治の「イーハトーブ」にならったものです。先入観や思い込みを取り払って見たこの世界、子どもや異邦人の目で見直したこの現実を描いています。もちろん「イバラード」は「茨木」から取っています。

「イバラード」の世界はどのような発想から生まれたのですか。

一つは、幼い頃の「なつかしいあかり」や「麦畑」など。二つめは、夢などの無意識の世界。三つめは、何かのときにふと思いついた情景です。私はいつも映像を先に思い浮かべて、意味は後で考えます。

宮崎駿作品との出会いを教えてください。

初めて宮崎作品を見たのはマンガの「風の谷のナウシカ」

です。宮崎監督に初めて会ったのは、東京での私の初個展で、招待状を出したら見に来られて、映画「耳をすませば」の空想場面を描くことになりました。

今後どのような絵を描こうと思っていますか。

キャンバスに向かって描き始めるまで、何を描くのか決めないし、また、仕上がるまでそれがどういう作品になるのか分かりません。描くことによって何かを発見します。それでもあえて言うなら「まだ誰も見ていないが、とてもなつかしく心づくろく、当然あってしかるべき世界」の様子を描いた絵ですね。

井上さんにとって「生涯学習」とは何ですか。

「生涯学習」という言葉で考えたことはないですが、「科学と歴史の新しい知見に触れること」や「絵を描くことによって）この世界の新しい見方に気づくこと」でしょうか。私はここ数年、アイルランドやスウェーデンなどのあまり知られていない地域を訪ねて、その風土や歴史を知ることによって自分を見直すということがあります。絵を描くこと、音楽を作ることなども含めてそれらは結局、この世界の本当の姿を知り、自分がここにいることの意味について考えることになると思います。その方法として、人に勧められてとか多くの人の示すところに従ってとか、言葉や理論・理屈で考えてということではなく、「何となく心引かれるもの」「自分の心がより活性化する対象」など、自分の心の声に耳をすませるといっていいのではないでしょうか。



「Nakatsuの庭」(中津コミュニティセンター)

担当:野間 林田